

団体名 豊見城市立豊見城中学校	連絡先 TEL : 098-850-0036 Eメール: jh-tomigusuku@city.tomigusuku.okinawa.jp
---------------------------	--

1 実践事項（特色ある取組）

タイトル：生徒の「自己肯定感」を高める教育活動の工夫

2 実践内容

【生徒の「自己肯定感」を高める教育活動の主な実践】

1 「問い」が生まれる生徒の姿を明確にした授業づくり

(1) 視点をもった授業づくり（「問い」が生まれるサポートガイドより）

- ① 単元を見通した授業づくりを行う。
 - 単元の目標を設定する。
 - 単元における教材や生徒の実態を把握する。
 - 単元の指導計画や評価計画を組み立てる。

② 「問い」が生まれる生徒の姿を明確化する。

視点1 主体的に「問い」をもち、自分なりの考えをもつ姿

視点2 他者との交流を通し「問い」が生まれ自分の考えを広げ深める姿

視点3 学びの過程を振り返り、新たな「問い」をもつ姿

※ 授業づくりの際には、上記視点1, 2, 3を意識して位置づける。公開授業の際には、どの視点を中心に取り組むかを指導案に明記する。

(2) 「一人一回公開授業」の充実

- ① 指導案の様式を、「問い」が生まれる生徒の姿が明確化できるように工夫する。
- ② 当該教科の参観は必須とし、視点をもって参観する。（色分け付箋メモの活用）
- ③ 一人一回公開授業の参観は、教科会でリフレクションを行い、管理職とのリフレクションと合わせてその後の授業改善につなげる。

2 個に応じた学習支援

(1) 「ブラッシュアップ学習ウイーク」の設定

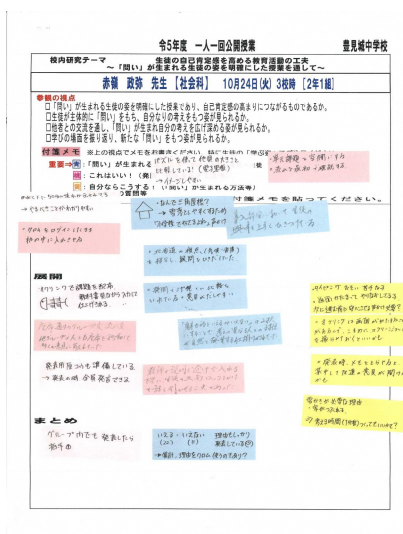
- ① 「ブラッシュアップ学習ウイーク」と称して、学習が「Cの状況にある生徒」を対象とし、「概ね満足の状況」を目指して全教科で学習支援等を行う。
- ③ 実力テストや学習評価に向けて設定することで、対象生徒の学習への取組の改善を図る。
- ③ 対象生徒が必要な支援が確実に受けられるように、期間や設定方法に留意する。

(2) 日常的な学習支援

日頃の課題や単元テスト等の取組状況に応じて、学習支援が必要な生徒に補習を行う。

3 説明資料

【「問い」が生まれる生徒の姿を明確化した授業づくり】（実践内容1）



↑ 視点をもって授業を参観する
(色分け付箋メモ)

【授業参観の視点】

- ① 「問い」が生まれる生徒の姿を明確にした授業であり、生徒の「自己肯定感」につながるものであるか。
- ② 生徒が主体的に「問い」をもち、自分なりの考えを持つ姿が見られるか。
- ③ 他者との交流を通し「問い」が生まれる自分の考えを広げ深める姿が見られるか。
- ④ 学びの過程を振り返り、新たな「問い」を持つ姿が見られるか。

【付箋メモ】 ※各教科や管理職とのリフレクションの際に活用する。

青：「問い」が生まれる生徒の姿
桃：これはいい！ 参考にしたい
黄：私ならこうする 疑問・質問

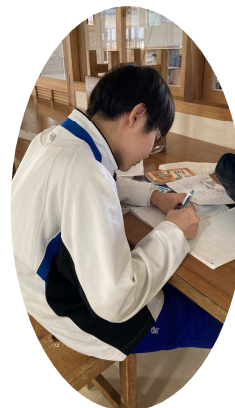
【個に応じた学習支援】（実践内容2）



↑ 放課後補習（数学）



↑ ブラッシュアップ学習ウイーク
(家庭科の学習支援)



↑ 放課後の自学自習
(学年フロア)

4 成果

- (1) 昨年度の『「問い」が生まれる授業づくり』から『「問い」が生まれる生徒の姿を明確化した授業づくり』に改善したことで、目指す授業のイメージを焦点化して実践することができた。
- (2) 一人一回公開授業の管理職とのリフレクション・各教科のリフレクションを通して、授業改善に役立てることができた。
- (3) 昨年度までの「実力テスト対策ウイーク、学習評価対策ウイーク」の取組を受けて、「ブラッシュアップ学習ウイーク」として継続することで、対象生徒の意識が高まりつつある。

5 課題

- (1) 『「問い」が生まれる生徒の姿を明確にした授業』を目指してきたが、まだまだ改善の余地が残されているので、教科会等での教材研究を充実させたい。
- (2) 各種学力テストやアンケート調査の結果等を活かした具体的な取組を充実させていきたい。
- (2) 自学自習ができる学びの場の環境を整えて、意欲のある生徒への対応をしていきたい。